

## JOMF 派遣医師便り (2016. 7)

### ◆マニラ◆

## マニラで雨期に注意すべき疾患

マニラ日本人会診療所

菊地 宏久

6月に入りフィリピンは雨期に入りました。大きな台風はまだ来ていませんが、夕方になると日本の夕立のような雨が降り、道路の冠水が一部地域で起こるようになってきました。

この時期に注意すべき感染症としては Dengue 熱、チクングンヤ熱、レプトスピラ症、そしてインフルエンザ、アメーバ性大腸炎などがあります。これらの疾患は当地では年間を通して見られますが特に雨期に患者数が増加します。蚊の繁殖する時期、大雨によって汚水と接触する機会が増える時期、集団で活動したり移動したりするこの時期に感染の拡大が認められています。注意が必要です。日本からフィリピンに来られる方もこれらの疾患に対してご自分でできる予防策を講じることが大切です。以下、各疾患について簡単に記します。

Dengue 熱とチクングンヤ熱は主に昼間の蚊に刺されることによって感染します。(マラリアは夜間の蚊に注意!)。蚊よけスプレーや長ズボン・長袖シャツ着用など、何よりも蚊に刺されない工夫をしましょう。池や沼の周辺だけでなくビル工事現場のバケツ水や古タイヤの貯留水周囲などにも注意が必要です。また、フィリピンでも今年から予防接種が開始されたワクチン接種も有効です。Dengue 熱やチクングンヤ熱の主な症状は強い全身倦怠感を伴う高熱や関節痛です。時に鼻出血や消化管出血などの出血傾向を伴う場合がありますが、このような病状の時には入院加療を受けないといけません。発疹は解熱直前に現れることがあります。日本人は発疹が出ない方のほうが多い印象です。蚊に刺されてから発症するまでの潜伏期間は1週間前後です。

レプトスピラ症はネズミや家畜の尿、その尿で汚染された水や土壌からの皮膚接触感染や経口感染で起こる病気です。大雨により流れ出る道路の汚水や貯留水にも気を付けましょう。発熱、筋肉痛、結膜充血症状などに始まり、重篤化すると肝不全・腎不全に陥り死亡することもあります。潜伏期間は1週間前後です。

日本でもお馴染みのインフルエンザは空気感染によって広がります。日本との大きな違いは流行する時期です。日本では冬の乾燥した時期に流行しますが、当地では雨期(日本の夏)に流行しています。感染予防のために手洗いやインフルエンザワクチン接種は極めて重要です。当診療所においても、多くの方が今の時期にワクチン接種を受けています。

アメーバ性大腸炎は患者糞便を経口的に摂取することで感染します。非常に強い水様性

下痢が続きます。時に肉眼でもわかるようなイチゴジャム様の粘血便（アメーバ赤痢）のこともあります。腹痛や嘔気、脱水症状が強くなると歩くことさえも困難になります。潜伏期間が数日から数週間と長いこともあり、旅行者は日本へ帰国後に発症する 경우가少なくありません。また症状を繰り返す場合には潰瘍性大腸炎や大腸癌との鑑別も必要です。

マニラの雨期に注意すべき感染症について書きました。各疾患の潜伏期間や滞在スケジュールにもよりますが、フィリピンで感染し日本へ帰国後に発症することもあります。日本で受診するときは症状経過と共に、フィリピンでの滞在歴も必ず付け加えていただくことが大切です。皆様お体大切にしてください。

2016年7月13日